

子どもたちには、ゼロからイチを創り出す力、夢中になって一つのことを掘り下げる姿勢、グローバルな社会課題を解決する意欲、多様性を受容し他者と協力する能力を身に付けて、明日を拓き新しい未来を牽引してほしいと願っています。そのため長野市は、学校間の連携、地域、家庭、民間事業所などいろいろな方と連携・協働して、子どもたちの学びを支援していきます。

【自】学自習の資質能力の伸長を支援するために

——はじめに長野市の教育方針についてお聞かせください。

丸山 長野市の教育理念は「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」です。この理念のもと、今年度新たに第三次長野市教育振興基本計画がスタートしました。このうち学校教育分野を中心とした実施計画として位置付けるのが「第三期しなのおプラン」であり、予測困難な「明日」を担う子どもたちに育んでもらうべき明日を拓く力として「**学自習の資質能力**」を中核に位置付けています。そして、その能力をすべての子どもたちが伸張できるように支援することが同プランの目的です。

学自習の資質能力の伸張を支援するために、長野市では教員の力量向上はもとより、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進、知・徳・体を一体的に育成する取り組み

に重点的に力を入れていきます。さらに、学校間の連携、地域、家庭、民間事業所など様々な方と連携・協働しながら、子どもたちの学びを支援していきます。

【未】来を牽引する人材に求められる4つの能力

——教育長の任期3年のうち半分が過ぎました。これまでを振り返り、また今後の教育のあり方についてどうお考えですか。

丸山 これまで本当にあつという間でした。しかもずっと新型コロナウイルス感染症への対応に追われました。ただ、1年半この職に就いて、学校の課題が多様化かつ複雑化しており、教育委員会だけでは解決できない事案が増えていることを認識しました。私は行政職の出身ですので、首長部局のことも未来部や保健福祉部の皆さんのことも知っていますし、連携しやすいという点では良かったと思っています。

今後の教育のあり方については、新しい未来を牽引する人材を育成したいと思っています。未来を牽引するには、**基礎的な能力や専門的な能力だけでなく、常識や前提に囚われずにゼロからイチを創り出す力、夢中を手放さないで一つのことを掘り下げる姿勢、グローバルな社会課題を解決する意欲、多様性を受容し他者と協力してやっていく能力**が求められます。これら4つの能力を

地域や家庭、民間と協働しながら明日を拓き未来を牽引する人材の育成を



まるやま よういち
丸山 陽一氏

長野市教育委員会教育長

1962年2月生まれ。1987年長野市役所入庁、2019年企画政策部参事兼市長公室長、復興局長を兼務。2020年商工観光部長に就任し、2021年より現職。

下回りました。特に、科学的論理的な思考力と説明力が弱いという結果が出ています。先ほど、明日を拓き未来を牽引する人材の育成と申し上げていますが、イノベーションや変革を起こすのは、宇宙やバイオやサイバーなど、どちらかと言えばサイエンススペースの能力です。だから**科学や理科に興味を持つ子どもたちを増やしたい**、興味を持った子どもたちにはその資質をもっと伸ばしてほしい、そう思います。ICTの活用を含め、**サイエンスへの興味を深める環境を整えることが大事**になります。

そう申しますのも、5月に経済産業省が出した未来人材ビジョンによると、OECD（経済協力開発機構）加盟国中、日本の15歳の数学的・科学的リテラシーはトップレベルであるのに、数学や理科を使う職業につきたいと考える子どもや、高校や大学で理系を選択する子どもは少なく、その高い数学的・科学的リテラシーが活かされていないと指摘しています。

子どもたちが科学の楽しさを感じられるような探究型の理科学習を増やすことが求められていると思います。義務教育課程でももちろんできることはあつて、長野市では今後、**理科教育センター等を有効に活用したり、コロナ禍で減少したりリアルな体験活動を再開したりしながら、すべての子どもたちに科学に触れ科学に興味を持つ機会を提供して**いきます。そのためにも地域、とりわけ民間企業さんと協働していきたいと考えます。

【プ】ログラミングコンテストから世界に羽ばたけ

——民間との協働というお話が出ました。長野商工会議所との関わりについてどうお考えですか。
丸山 **U-15長野プログラミングコンテストは本当にすばらしい取り組み**だと思います。北村会頭が同コンテストを始めた時、私は商工観光部におりました。プログラミング教育へ寄せる

伸ばす教育に力を入れ、子どもたちの成長の芽を育てます。

特に多様性についてはますます重視されるでしょう。「多様性なくして企業の成長なし」という企業があるように、国籍、人種、性別等の違いを受容し、協働して課題に向き合えないとイノベーションは生まれません。これは学校でも同じで、集団の中で互いの違いを認め合い、多様な価値観に触れながら、皆で話し合つて課題を解決していく能力が非常に大事になってきます。

このように、教育現場においても時代の変化や社会のニーズを知り、世の中に変革を起こして将来日本を背負って立つ人材を育てていくんだという意識が必要になっていきます。義務教育課程では、こうした資質が芽生える下地を整え、子どもたちが協働して自律的に学び探究する環境をつくること、出る杭は打たずに伸ばすことが重要だと思っています。

【理】科や科学に興味を持った子どもを増やしたい

——GIGAスクール構想等、ICT活用教育について教えてください。

丸山 GIGAスクール構想は、児童生徒1人1台の学習端末を提供することで、個別最適化された教育、協働的な学びを実現することを目指します。ICTなどの先端技術を活用し、活発なコミュニケーションを通じて創造性や論理的思考力を養うことが目的ですので、日常の授業ではとにかく端末に触つて使つて、先ほど申し上げた4つの能力の芽を出してほしいと願っています。

先に行われた全国学力・学習状況調査では、4年ぶりに試験科目となった理科の点数が前回を会頭の熱意と、コンテスト実現のために奔走されたフットワークの軽さにはただただ敬服するばかりです。

長野市では1985年にICT産業協議会を設立しましたが、IT人材の不足を訴える声は近年産業界で高まっており、経済産業省では2030年にはIT人材は79万人不足すると試算しています。人材育成を早期から着手しようと、国は2020年度から小学校でプログラミングを必修化しましたので、2018年にU-15長野プログラミングコンテストが始まったことは、まさに時機を得た取り組みでした。

実は、第1回大会の優勝者が長野高専に進み、今このコンテストの講習会の講師となつて、子どもたちにプログラミングを指導しています。我々が待ち望んでいた好循環が生まれているのです。今後は**このコンテストを築いた若者が、社会課題の解決を志して長野市で起業し、さらに世界に羽ばたいてほしい**と願っています。

U-15長野プログラミングコンテストは、民間の皆さんとの協働の典型ですから、もっと協賛企業が増えてほしいです。またこの他の取り組みでも企業の皆様、大学、高専等高等教育機関と強力なタッグを組んで、明日を拓く深く豊かな人間性を備えた人材を育てていきたいと思っています。

丸山 陽一さんの横顔



語れるほどの趣味はありません。オフには犬と散歩に出かけたり、YouTubeで新車試乗レポートや航空宇宙関連の動画を観たりしています。